
2024年3月期 第1四半期決算説明会

2023年8月3日

 三越伊勢丹ホールディングス



I : 2024年3月期 第1四半期実績

II : 2024年3月期 通期計画



I : 2024年3月期 第1四半期実績

II : 2024年3月期 通期計画



- ・ 総額売上高は引き続き堅調：継続堅調な国内需要に加えインバウンド回復により大幅増収。
- ・ 販管費コントロールは着実：売上連動費等の増加はあるが経費構造改革は着実に進捗。
- ・ 営業利益は前年倍増：コロナ前（18年度）を超える水準。（収益認識基準適用前比較）

（億円）	1Q （4-6月）	前年比	前年差	（参考） 収益認識基準 適用前
総額売上高	2,777	114.3%	+ 348	2,777
売上高	1,186	116.8%	+ 170	2,777
売上総利益	706	113.7%	+ 85	786
販売管理費	620	106.6%	+ 38	672
営業利益	86	<u>218.3%</u>	+ 46	114
経常利益	101	<u>223.1%</u>	+ 55	127
当期純利益	68	120.4%	+ 11	95



- ・伊勢丹新宿本店の第1四半期売上高は、継続して過去最高売上を更新。
- ・今後も高感度上質戦略、CRM戦略を引き続き推進し、売上高の拡大を図る。

伊勢丹新宿本店 1Q売上高 年度別推移
2008年～2023年

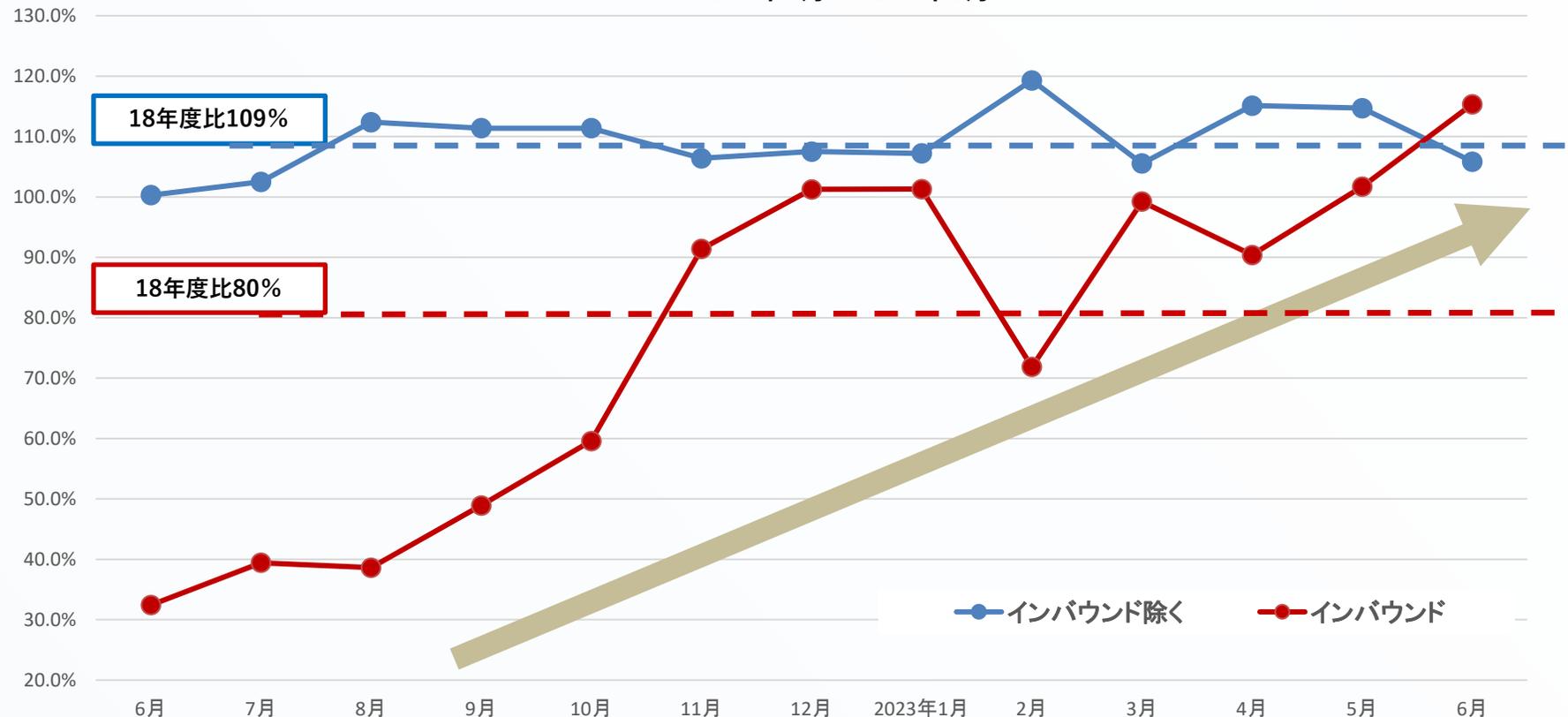


※ 収益認識基準適用前、総額売上高ベース



- ・三越伊勢丹単体のインバウンド除く売上高伸び率は引き続き順調。1Q累計は111%。
- ・一方、インバウンドの売上高伸び率は6月以降急上昇し、1Q累計伸び率は102%。
- ・いずれも、通期計画（インバウンド除く109%、インバウンド80%）を上回る順調な推移。

三越伊勢丹 月別売上高伸び率 対18年度比
2022年6月～2023年6月



※ 伊勢丹相模原店・伊勢丹府中店・恵比寿三越は除く
 ※ 収益認識基準適用前、総額売上高ベース



- ・経費構造改革による経費削減は▲12億円、年間削減計画▲40億円に対し計画通り。
- ・物価上昇は想定より低くコントロールでき1Qで+7億円。

(億円)	1Q (4-6月)	前年増減	前年増減の内訳				
			当年増減				
			経費 構造改革	売上連動	物価上昇	新規連結	その他
人件費	221	+11	▲4		+3	+12	
宣伝費	21	+4		+4			
地代家賃	80	+1	▲4			+5	
外部委託費	72	+1	▲2			+2	+2
減価償却費	56	▲1				+1	▲2
水光熱費	23	+4	▲1		+4	+1	
その他	145	+15	▲1	+7		+9	
合計	620	+38	▲12	+11	+7	+31	+0

セグメント別業績（第1四半期実績）



- ・百貨店業：首都圏で識別顧客拡大が更に進捗。5/8以降の制限解除もあり、売上は引き続き好調。経費構造改革効果もあわせて営業利益は大幅な増加。
- ・クレジット・金融業：外部取扱高増加により総額売上高は拡大するも投資等で利益は前年差なし。
- ・不動産業：建装事業強化により総額売上高は拡大するも家賃収入減の影響で減益。

(億円)	総額売上高	前年比	売上高	営業利益	前年差	(参考) 収益認識 基準適用前 営業利益
百貨店業	2,576	111.6%	989	67	+47	87
クレジット・ 金融・友の会業	90	104.9%	78	11	+0	17
不動産業	49	116.1%	49	4	▲5	4
その他※	61	(△9)	68	3	+4	3
合計	2,777	114.3%	1,186	86	+46	114

※その他には調整額を含む



I : 2024年3月期 第1四半期実績

II : 2024年3月期 通期計画



- 総額売上高は、インバウンド除く・インバウンドとも好調な第1四半期実績のみ織り込み、第2四半期以降当初計画を据え置き
- 販売管理費は、売上連動経費増を織り込み、当初計画を据え置き

営業利益は統合後最高益を大きく超える380億円を計画



- ・総額売上高：足元の状況を踏まえ、5月計画値より+150億円の上方修正。
- ・販売管理費：物価上昇はやや鈍化するも、売上連動経費増も織り込み5月計画値を据え置き。
- ・営業利益：足元の売上増を踏まえ、+30億円の上方修正。

(億円)	通期	前年差	前年比	5月計画差
総額売上高	11,550	+665	106.1%	+150
売上高	5,150	+275	105.7%	+50
売上総利益	3,040	+174	106.1%	+30
販売管理費	2,660	+90	103.5%	—
営業利益	380	+83	128.3%	+30
経常利益	400	+99	133.3%	+30
当期純利益	300	▲23	92.7%	+20



- ・ 百貨店の科学による経費構造改革の推進：経費削減は継続、今後積み増しを目指す。
- ・ 売上連動経費：売上高の計画以上の好調に伴う連動経費は適切に計画化。
- ・ 物価上昇経費：先行きの状況が未定なため、第2四半期以降は期初計画を維持。

前年増減の内訳

当年増減

(億円)	23年度 計画	前年増減	当年増減				
			経費 構造改革	売上連動	物価上昇	新規連結	その他
人件費	932	+2	▲21		+9	+13	+1
宣伝費	96	+8		+8			
地代家賃	324	+2	▲8	+3		+5	+2
外部委託費	288	▲1	▲4			+2	
減価償却費	236	+2				+2	
水光熱費	129	+29	▲2		+30	+1	
その他	655	+47	▲5	+41		+10	+1
合計	2,660	+90	▲40	+53	+39	+33	+5



- ・百貨店業 : 足元の売上の増加や経費構造改革の進捗をふまえ、営業利益を5月計画値より+30億円と上方修正。
- ・百貨店業以外 : 期初計画に対して堅調に推移しているため、5月計画値を据え置き。

(億円)	総額売上高	前年比	売上高	営業利益	前年差	5月計画差
百貨店業	10,600	104.2%	4,307	270	+65	+30
クレジット・ 金融・友の会業	355	105.8%	325	40	+2	—
不動産業	290	141.3%	290	45	+4	—
その他※	305	181.3%	228	25	+11	—
合計	11,550	106.1%	5,150	380	+83	+30

※その他には調整額を含む